

リレーエッセイ

テーマを投げる職員もテーマを受け取る職員も誰から何のテーマが来るのか編集委員からのオーダーがあって初めて知る本コーナー。職員が知らないあの職員の内側をのぞけると、ひどい人気です。

「冬の楽しみ」(桂職員からのリレーテーマ)

私の実家では年末の大掃除と同時進行で餅つきをします。つきたてのお餅を食べることはもちろん楽しいですが、大きな蒸し器で蒸されたばかりのもち米を食べさせてもらったり、お餅を「熱い、熱い」と言いながら家族みんなでひとつずつ四角く平たい形に整えて、お正月以降に食べる分の準備をしたりすることも、長年の私の冬の楽しみでした。

餅つきには臼と杵ではなく、電気で動く餅つき機を使います。実家には30年以上現役で働いている餅つき機があり、蒸したお米を餅つき機に入ると、だんだんお餅になっていくという何とも不思議な光景も、子供のころはとてワクワクしたものでした。結婚して実家を出ると決まった時はもう餅つきの手伝いができないなと思っていたのですが、なんと、あったんです。嫁ぎ先に、餅つき機が。まだしばらく楽しみが続きます。



総務 豊岡 藍

「尊敬する人」(渡邊秀樹職員からのリレーテーマ)

私の尊敬する人は祖母です。

小さいときから、両親が共働きということもあり、学校から帰ってくると祖母がいることが当たり前で、躰をはじめ身の回りのことをしてくれたのは祖母でした。学生時代、何も言わなくてもワイシャツにアイロンがかかっていること、部活でどんなに夜遅くに帰っても夕飯を温めて待っていてくれること。小さな事かもしれませんが、たくさんの気遣いと優しさに助けられました。さらに現在80歳を超えても、農業で毎年のように新しい野菜にチャレンジしたり、趣味の琴では発表会に出るなど、年齢に囚われず様々なことに挑戦しています。そんな他人想いであり、歳を重ねても様々なことに挑戦し続ける祖母のような女性になることが私の夢であり、これからも尊敬したい人です。



にこ児童指導員 丸山由希

次月は、ぶあん山本職員、ららん柳澤職員へつなぎます。

お楽しみに！！

りとるらいふ 通信

(社福) みんなでいきる
障害福祉事業部りとるらいふ
発行日：2016年11月

気付けば2016年も残すところあと1か月半。雪が降るのももうすぐでしょうか。ウインター(だけではないですが...)スポーツに縁のない私にとっては雪は面倒なものでしかありません。先日、研修でお会いした方に「縦型の信号初めて見ました!そして屋根のはしごは何ですか?」と聞かれました。子どもの頃から普段見慣れている光景も地元外の人から見れば不思議な景色なんだなと感じました。それでは、11月号のりとるらいふ通信をお届けします☆



「ありがとうの
気持ちを込めて

「りとる感謝祭2016」開催！！



「りとる感謝祭」が去る10月9日(日)に開催されました!少し遅くなりましたが、今月号はその報告をさせていただきます☆

感謝祭当日が快晴になることをスタッフ一同で願っていたのですが、当日はあいにくの雨...

そのため、室内での実施となりました。少しこじんまりとした空間ではありましたが、雨の憂鬱な気分を吹き飛ばすようなステージを出演団体の皆さんが披露してください、とても盛り上がりました!今年の飲食はクレープ、焼きドーナツ、ワッフル、サンクス米山さんの特製カレー等、とても充実。お昼時には、2階のイートインスペースが満員になるほどの大賑わいでした。

また、ゲームやワークショップも大盛況。

雑貨屋「mote」にはさをり織りのバックやコースター、ビーズのプレスレット等の種類豊富な商品が並び、



たくさんの方から足を運んでいただきました。

感謝祭の最後には皆様が楽しみにされていたであろう「抽選会」を行いました。今年の景品は“地域密着型”。食品から商品券まで幅広いものをご用意いたしました!!また、今年は1等2等...とは定めず、包装を開けてみなければ商品が分からないというドキドキの抽選会でした。皆様に幸せをお届けできたのであれば嬉しいです。/

＼(ここでちょっと裏話...)／

りとる感謝祭を成功させるべく、感謝祭実行委員会が発足したのが5月のこと。よりよいイベントになるように、実行委員で打ち合わせを何度も重ねてきました。そんな実行委員に直接インタビューし、前日準備の裏話を教えていただきました♪

前日準備では、200個以上の風船をみんなで協力して膨らませました!(※某職員は1人で90個膨らませたそう。すごい...)

当日は雨だったため、テントは使いませんでした...

前日に全てのテントを1度組み立ててみたので、テントの組み立てが上手になりました。



♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪

そして最後になりましたが、りとる感謝祭が無事に終わられたのも、ご来場くださった皆様や出演・出店していただいた皆様、ボランティアの皆様のおかげだと思っています。ご協力くださった皆様、ありがとうございました!!

当日はあいにくの天候でしたが、みんなの気持ちは達成感でいっぱい。「快晴☆」でした。来年もお楽しみに☆



りとるの新しいなかまたち～新入職員ご紹介～

お知らせ

以下の通り職員の人事異動がありましたのでお知らせ致します。

入職

10月11日付
渡邊 幸子

11月1日付
稲井 理恵子

～よろしくお願いします～

退職

10月31日
金子 将志

～お世話になりました～

りとるの新しいなかまたち～新入職員ご紹介～



10月11日よりきらでお世話になっています。「渡邊幸子」です。福祉のお仕事はまったくの未経験者です。みなさまからひとつずつ学びながら私の合言葉「いつでも、誰にでもありがとう」の気持ちを大切にがんばってまいりますのでよろしくお願いします。



はじめまして。きらに入職しました、稲井理恵子です。福祉の仕事は初めてですがやる気だけは十分あります!これから色々勉強して頑張りますので皆さんよろしくお願いします☆



りとるの新しいなかまたち～新入職員ご紹介～

発行者：社会福祉法人みんなでいきる 障害福祉事業部りとるらいふ
通信に関するお問い合わせ先：事業部代表 TEL025-542-0170 (担当：金子)

「一億総活躍プラン」から垣間見える「地域共生社会」とは？

～どうせ起こる変化なら、そこに光と希望を追い求めて～

社会福祉法人みんなでききる 副理事長 片桐公彦

行ってきました！小旅行！！～きらの活動より～

昨年実施し、皆様より大好評いただいたきらの小旅行を今年も実施いたしました。全4コースから行きたい旅を選んでいただき、2～4人の小グループで行けるように、全部で11回に分けて実施しました。

(1) 新潟せんべい王国



新潟市にあるせんべい王国へ行き、ばかうけの味付け体験をしてきました。会場では実際におせんべいを焼いている場面を見学し、焼きたてのおせんべいの試食もさせてもらえました。ばかうけの味付けは好きな味を3食選んで、オリジナルのばかうけを作ることができました。そして何より皆さんが喜ばれたのが昼食のどんかつです。どんかつ政ちゃん、ボリュームたっぷりのどんかつランチを全員きれいに完食されました。

(2) 長岡電車の旅

直江津駅から電車で長岡駅まで行き、ランチを食べてきました。片道約1時間強、ゆっくりのんびり電車の旅を楽しみました。ランチは長岡駅にあるファミレスで、好きなメニューを選んで食べました。店員さんがとっても親切で、心もお腹も大満足でした。帰りの車内は眠くなるかなと思ったのですが、誰一人眠ることなく目をキラキラさせて楽しい時間を過ごされました。



(3) 富山三井アウトレットパーク



三井アウトレットパークでは有名なブランドがたくさんあり、その中から好きなお店を探して買い物を楽しんできました。昼食はピュッフェで、大人な味を楽しんできました。富山まで道のりは遠いけれど、それだけの時間をかける価値のある旅行となりました。

(4) 上越ランチ&ドライブ

ランチを春日山にある Frutto (フルット) と、下門前にあるキャナリィ・ロウヘ日を行ってきました。どちらのお店も店員さんがとっても親切で、素敵な店員さんに出会えたことで料理がさらにおいしく感じられました。近場でこれだけ満足することができるんだと新たな発見となりました。ドライブはいもり池まで行って、秋の風景を楽しんできました。



全11回の旅行を、事故・ケガなく終えられることができ、本当に良かったです。次回はどんな小旅行となるのか、楽しみにしてください。ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

HAPPY HALLOWEEN

～ららの活動より～

10月31日はハロウィン。ららでは10月23日(日)に一足早くハロウィンパーティーを行いました。ハロウィンと言えばやはり仮装！ということで、ららのみんなも仮装をして楽しみました！

午前中は調理活動。今回みんなで作ったのは「お菓子の家」と「おにぎり」。お菓子の家チームはみんなで意見を出し合いながら、ウエハースや板チョコといった様々なお菓子をトッピング。完成したお菓子の家はおやつでおいしくいただきました(^)おにぎりチームは一つひとつ心を込めて握っていました。定番の三角だけでなく様々な形のおにぎりができあがりしました！

お昼ごはんは手作りおにぎりとおダブルを食べ、午後からは「かぼちゃバッグ制作」。完成後、スタッフにお菓子をもらいに向かいます。みんなハロウィンの合言葉「トリックオアトリート」を伝え、無事にお菓子をもらうことができました！

とても楽しい1日になりました。



季節を感じる装飾

～にこの活動より～

10月は学習発表会や文化祭など子どもたちのイベントがたくさんありました。本番に向けて部屋の中で発表練習をする子や疲れて



「ゆっくりする」と予定に書いて休む子、アクティブな夏には見られない部屋の中での活動に季節の移り変わりを感じます。

そんなこの部屋も季節ごとに模様替えをしようと、1年ぶりに装飾を再開しました。まずは10月といえばハロウィン…ということで実習に来ていた学生さんにもお手伝いしてもらって飾りを作りました。キャンディーを吊るしたガーランドやオーナメントを作ったり、入り口にはみんなを迎えてくれるモンスターを切り絵して飾ってみました。

次は冬に向けていろんなものを製作しています。また、製作だけでなく冬場のお出かけ企画やお楽しみ会も計画していますので、楽しみにしてくださいね☆

平成28年6月2日、政府の間議決定で「一億総活躍プラン」が示されました。団塊の世代が2025年頃までに後期高齢者(75歳以上)に達する事により、介護・医療費等社会保障費の急増が懸念される「2025年問題」はもちろん、この社会的な課題がさらに深刻化する2040年に向けての青写真も描かなくてはなりません。2040年は少子高齢化問題が来たるべく未来としてではなく、現実的な風景として日本全国がお年寄りで溢れます。介護人材は少なく、支え手の枯渇化が現実のものとなります。

さらには現在1800ある自治体のうち、896の自治体が消滅し、うち523自治体は人口が1万人を割ります。20歳から39歳までの女性が増える自治体は15に過ぎず、秋田県はごくごく小さな村を残して全てが消滅の可能性があるというデータが示されています。そんな背景も「一億総活躍プラン」にはあるのではないかと自分は踏んでいます。

このプランは「戦後最大の名目GDP600兆円」「希望出生率1.8」「介護離職ゼロ」大きくわけて3つの目標が柱になっています。私は福祉分野の人間ですので、特に少子化や高齢者問題を中心にこのプランを読み解いてきました。

そんな中、平成28年7月15日、厚生労働省は「地域包括ケアの深化・地域共生社会の実現」という資料を示しました。この中には、先述の「一億総活躍プラン」がその背景にあることが触れられています。

厚生労働省資料の中で注目すべき文言は【高齢者・障害者・子どもなど全ての人々が一人ひとりの生きがいを、ともに創り、高め合う社会(地域共生社会)の実現】【対象ごとの福祉サービスを「タテワリ」から「まるごと」への転換】【医療・介護人材の確保・養成、人材のキャリアパスの複線化～医療・福祉の複数資格に共通の基礎課程を創設専門課程との2階建ての養成課程へと再編することを検討～】あたりです。これはこれまでの「介護保険・障害者総合支援法・児童福祉法」といった別々の枠組みで提供されていたサービス類型について、一緒の場所で提供できるようにするのではないか？という方向感が示されています。さらに資格要件についても、例えば介護福祉士の方が子どものサービスに従事するようにする場合は、一から保育の資格を取得するための課程を修了しなければいけないことになり、かなりの時間と労力がかかることとなります。なので、検討事項として、介護・子育ての資格取得については共通する養成課程を作って、その後に専門的な課程を学ぶことで、別の資格を将来的には検討しようとするものです。

これまで我々はそれぞれの分野やサービスタイプの枠組みの中で物事を考えてきました。高齢・障害・児童の支援の枠組みはそれぞれの専門性が規定され、施設の基準をそれぞれに厳密に規定されていました。それはそれで一定の効果や専門性の高まりは担保されていたと思いますが、一方で、その専門性はごく一部の分野で通用するに過ぎないといった指摘もあつたようです。さらに先述しているように、2025年、2040年といった未来像を見据えた時に、現行の枠組みの中では制度的にも使う国費の効率性も考えて限界が見えてきたと私は理解しています。

「みんなでききる」では、現在、高齢系のサービスを展開しています。「老人保健施設サンクス米山(定員100名)」「短期入所サンクス柿崎(定員40名:デイサービス25名)」「特別養護老人ホームサンクスレルヒの森(定員100名)」です。この中で、高齢のサービスと障害のサービスのプラットフォームについてチャレンジしています。少々制度的なややこしい説明になりますが、介護保険のサービスの中に「空床利用型」という指定の取り方があります。介護保険サービスで空きが出た場合、障害のある方の利用も認める、というものです。「みんなでききる」では「サンクス柿崎」の短期入所で空いているベ

ッドがある場合に、障害のある方にも利用できるような工夫をしています。「短期入所の空床利用型短期入所」という指定の取り方になります。これを活用してまだごくわずかな人数のご利用にとどまっていますが、圧倒的に足りない障害のある方の短期入所ニーズへの対応策として手がけています。

「一億総活躍プラン」の中で位置付けられている「地域共生社会」はこうした取り組みをさらに前進させようとする狙いが垣間見えます。厚労省資料には「地域の実情に合った総合的な福祉サービスの提供に向けたガイドライン」では「兼務・共用の取り扱いが明確でない人員・設備の取り扱いについて現行制度で運用上可能な事項を明確化し、高齢者、障害者、児童等の福祉サービスの総合的な提供の阻害要因を解消」と書き込まれています。こちらについては既にOKのものが含まれているのですが、これら共通の基準を活用して、よりボーダーレスに支援ができるような方向性は強くにじみ出ています。すでに「サンクス柿崎」での取り組みを私どもは行なっているわけですが、こうした取り組みがさらにしやすくなるような規制緩和が行われる可能性は高いと思っています。

もう一つの柱である「人材の活用」については大きなテーマです。制度的にOKであっても人はこれまでの経験や慣れ、獲得してきた技術がありますのでおそれと「今日までは高齢者介護でしたが明日から児童のサービスに行ってください」というわけにはいかないと思います。資格取得のプロセスとして整理がされても実際に現場に働く方々の不安やストレスは相当なものだという風にも感じています。こちらにつきまちは「みんなでききる」として徐々に高齢分野・障害分野の人材の交流をはじめとしています。いきなりその業務に従事するのではなく、少しずつお互いのサービスの特徴やカルチャー、慣例や働き方の流れなどを共有していく作業を行なっています。プラットフォームの構築は単純な職場の配置転換だけで身につくことは難しいと考えています。支援を受ける側と支える側が納得して向き合える関係を作っていくことがとても重要なポイントです。

総合支援法3年後の見直しの中で、高齢になった障害のある方が引き続き生活介護の事業所にいながら高齢の通所介護サービスを受けることができ、その際の利用者負担は軽減するという方策が打ち出されています。また高齢通所介護においても障害のある方を受け入れるという方向感に今後はさらに拍車がかかるのではないかと私の予測です。もし、そうなった時に、生活介護事業所に当たり前に高齢者が通い、同時に高齢の通所介護事業所に当たり前に障害のある方がいる、という風景が出来上がるのではないかと私は思います。財政的な事情や深刻な人材難の中でひねり出された妥協案として向き合うのか、それとも「共生社会の実現」として受け入れていくのかは、立場や考え方でそれぞれ意見が分かれるかもしれませんが、私はこの方向については前向きに受け止める立場を取ろうと思っています。

「新たな社会課題へのイノベーションを起こすのは異なった価値観のぶつかり合いから発生する」と書いたのは毎日新聞論説委員・野沢和弘さんでした。イノベーションとは「これまでのモノ・仕組みなどに対して全く新しい技術や考え方を取り入れて新たな価値を生み出して社会に新たな変化を起こすこと」と整理されます。

国が示したこの流れを後ろ向きに受け止めるのではなく、私たちの社会にさらなるイノベーションを引き起こすエネルギーの原点になると解釈してみたいと思います。

どうせ起こる変化なら、そこに光と希望を追い求めてみたいと、そんな風に僕は考えるのです。